

連載

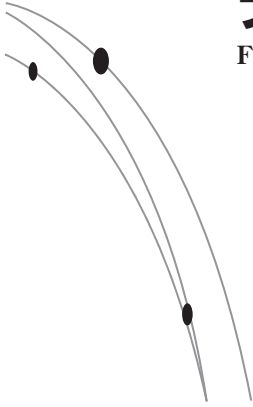
フィールド・アイ

Field Eye

ミュンヘンから——②

櫻田 涼子

Ryoko Sakurada



〳ミュンヘンにみる産学官連携の在り方

国際競争時代である現在では、革新的な技術や独創的な研究を推し進めるために、産学官が連携し合っ
て、知を集積することが求められている。前回取り上
げたドイツのエクセレンス・イニシアティブも、その
ことを想定して、大学を起点とする知識集積（Exzel-
lenzcluster）を重要な柱の1つにしている。日本でも
国立大学等の法人化以降、産学官連携は、重要な課題
となっており、企業と大学の共同研究や共同開発に始
まり、大学発ベンチャーに至るまで、様々な取り組み
がなされている。最近では、これに加え、大学の地域に
対する貢献も、産学官連携の重要なテーマの1つと考
えられている。

日本でも大きな期待が寄せられている産学官連携で
はあるが、実際には様々な難しさも抱えている。例え
ば、連携している各機関の求める最終的な目的や
成果が異なっていることによるコーディネートの難し
さや、一定の期間に具体的な成果を出さなければなら
ないことへの圧力などがその一例として挙げられる。
この難しさは、当然ドイツ国内の産学官連携にもある
だろう。だが、ここミュンヘンで生活してみて、産学
官連携をもっと広くとらえてみても良いのではないか
と感ずることがある。というのも、ここでの生活に
は、肩肘を張らずとも、生活に密着した形で、芸術や
学術を楽しむ機会が多くあったからである。そこで、
本稿では筆者の経験を基に、何らかの具体的な成果の
ためだけでなく、文化的側面を含めたもっと裾野の広
い産学官連携の可能性を検討する。

ここミュンヘンには、エクセレンス・イニシアティ

ブのエリート大学が、2校も立地している。1校が、
ミュンヘン大学（Ludwig-Maximilians-Universität
München）、もう1校がミュンヘン工科大学（Tech-
nische Universität München）である。しかも、いず
れの大学も第1ラウンド、第2ラウンド両方ともエ
リート大学に選出されている。双方にエリート大学と
して認められた大学が6校しかないことを考えると、
この地がドイツの学術的基盤として、どれだけ大きな
役割を果たしているのかがよく分かる。

ミュンヘンはバイエルン州の州都であり、ミュンヘ
ン市のホームページによれば、世界一流のハイテク産
業地域である。また、多数のグローバル企業の本社
が、立地している。例えば、名前にバイエルンの名称
がついているBMWの本拠地でもある。また、一般
的にはミュンヘンと言えば、オクトーバーフェストで
有名であるが、他方で企業関係者の間では、国際見本
市（メッセ）が開催される場所としても大変有名であ
る。メッセの時期に街を歩いていると、外国人である
私をメッセへの参加者だと思った地元の方が、「今日
のメッセはどうでしたか」と声を掛けてくれることが何
度かあった。それだけ、地元の人にとっても、メッセ
の開催は大きな意味をもっているのだろう。このよう
に、市そのものが経済圏として活性化し、かつ重要な
役割を果たしている点が、大学を起点とする知識集積
を促進している一要因と考えられる。

だが、ミュンヘン生活の中でより強く印象を受け
たのは、企業や研究機関、市などの公的機関が相互
に協力しようとする意識の高さである。それを表す
ように、産学官が連携した催しが多数開催されてい
た。例えば、Die Lange Nacht der Münchner Musee
が、10月（2012年は10月20日）に開催されてい
た。この催しは、夜の19時から翌早朝2時までの
間、ミュンヘン市内にある美術館、博物館、そして
協力している画廊やギャラリー等すべてに共通の切
符で入場できるものである。パンフレットをみると、
約100の施設がこの催しに参加しており、バイエルン
州やミュンヘン市もこのプロジェクトに協力してい
ることがわかる。また、参加している施設の中には、
MPG（Max-Planck-Gesellschaft zur Förderung der
Wissenschaften e.V.）といった、学術振興のための協
会もある。MPGは、80に及ぶマックス・プランク研
究所（MPI）を有しており、大学とは独立したドイツ
有数の研究機関である。他には、教会も参加してい

た。この催しでは、ミュンヘンにこれだけ多くの芸術的施設があることにまず驚かされるが、それだけではなく、参加施設の多様性にも驚かされる。

この催しでは、単に夜の美術館、博物館に入れるだけではなく、各々の施設がコンサートやオペラなど、独自のプログラムを提供しており、美術館や博物館の中で、通常の展示を見ながら、そういったプログラムを楽しむことができる。筆者が特に興味深く感じたのは、これらの芸術的プログラムの一つとして、Dr.等の専門家による講義が開催されていた点である。例えば、ドイツ博物館（Deutsches Museum）を訪れた際には、JAZZ コンサートのほかに、科学に関する講義が行われていた。筆者は、偶然その会場前を通りかかったのが、ほんの一部しか見聞きすることが出来なかったが、大学で行われる授業と同じような形式で、原子構造についての説明がなされているところであった。日本では、芸術は芸術として、学術は学術として、分けて考えられる傾向にあるが、ここミュンヘンでは、芸術も学術も科学という一つの物差しの上で、融合して捉えられているような印象を受けた。初めてこの光景を見ると、何故このような場で、専門的な知識を学び、議論しているのかと少し驚くが、しばらく暮らしていると、そういった場面に出くわすことも多く、その感覚も徐々に理解できるようになってくる。

このドイツ人的感覚を表すように、ミュンヘンでは、文化的な催しと研究者による講演が組み合わされた催しが多数開催されている。例えば、バイエルン州立民族学博物館（Staatliches Museum für Völkerkunde München）が主催しているサロン形式の催しに、一度誘われて参加したことがある。私が参加した Ballettmädchen, Märchenkönige und Dichturfürsten – Der japanische Schriftsteller Mori Ogai und sein Deutschland は当該博物館内で閉館後開催されるもので、森鷗外作品の朗読とともに、ミュンヘン大学の Schulz 教授と大東文化大学の美留町准教授による、鷗外とその作品についての講演がなされた。内容はとても専門的なものであったが、その雰囲気はとても優雅なもので、聴衆は飲み物を飲みながら、彼らの講演に聞き入っていた。休憩時には、博物館内で簡単な食事をすることもでき、参加者は博物館の雰囲気を堪能しながら、お腹を満たしたり、議論に花を咲かせたりして、各々に文化と学術双方を楽しんでいる姿が見て取れた。

そして、こういった芸術や学術に対して、企業や公的機関も協力していることが多い。例えば、先の Die Lange Nacht der Münchner Musee では、この催しの切符をもっていると、当日、このプログラムのためのシャトルバスだけでなく、通常の公共交通機関（MVV-Gesamtnetz）も利用することが出来る。また、ミュンヘンには多数の美術館や博物館があるが、入館の切符を購入すると大抵の場合、切符に協賛企業のロゴと名前が記載されている。コンサートの切符を見ても、同様である。日本でもチケットの下の方や裏側に、協賛企業が記載されていることが多いが、大概の場合、黒い文字で一列に記載されており、一度見てもあまり印象に深く残らない。ドイツでは多くの場合、チケットに企業のロゴマーク付きで、しかも時にはカラーで協賛企業名が記載されており、一見してどこの企業がこの催しに協力しているのかが分かるようになっている。そのためか、多くの企業がこういった文化的催しに協賛として協力している。日本でいえば、テレビコマーシャルとして、多くの企業が名前を連ねている感覚に近いかもしれない。また、ミュンヘンにある多くの企業が、大学や研究所と連携をとっており、大学生のうちから、授業の一環として企業訪問を行っている話をよく耳にした。

こういった日常生活に根差した形での産学官連携の在り方は、経済的要因も大いに影響するため、その点でミュンヘンが恵まれていることは否定できない。また、ここに至るまでの多くの努力と苦勞を想像すると、一朝一夕にして、成り立つものでないことは理解できる。ただ、今後の産学官連携の可能性を考える上で、ミュンヘンでの多様な産学官の関係が示唆することは、大きな意味を有しているのではないだろうか。

参考 HP（2013年2月時点）

München: <http://www.muenchen.de/rathaus/home>

Staatliches Museum für Völkerkunde München:

<http://www.voelkerkundemuseum-muenchen.de/inhalt/html/salon-12.html>

MPG: <http://www.mpg.de/>

さくらだ・りょうこ 福島大学経済経営学類准教授。最近の主な著作に「フラット型組織における昇進展望に関する実証的一考察－キャリア・プラトー現象に着目して－」『福島大学地域創造』第21巻第2号、20-34頁、2010年。人的資源管理論専攻。